

## 論文審査の結果の要旨

令和 2 年 7 月 29 日

本論文は、著者が長年に渡り携わってきた中関村エリアの運営組織を取り上げ、自らの実務経験も活用して、経営学の視点からその企業行為を分析・検証した。

中関村発展グループを始めとする同じ立場にある企業の行為を検証するために、本論文では競争優位の獲得、ブランド戦略の有り方、及びブランド価値の評価について、いくつかの概念を整理し再定義を行ったうえで新しい評価手法を確立した。特に和田が提唱するメーカーの生産・販売している製品に対して「ブランド価値」と「製品力の価値」に分類し当該メーカーの市場努力を評価するモデルを、本研究において企業を評価する際の重要な理論枠組みとして踏まえ、総合サービスの価値について階層性を以って峻別することを試みた。

また、本論文では、中関村エリアに関して国内の他の産業特区との比較・考察を実施したのみならず、シリコンバレーとの比較・考察にも取り組んだ。その際、特にクラスター化を念頭に置いて、両集積地の相違点を検証してきた。その結果として、中関村エリアが後発組として、いろいろな後発利益を享受できたことが検証できた。

最後に、本論文は三つの独創性が強調された。第一には、特区を運営する組織体を研究対象とする点での新規性である。第二には、総合サービスの評価を分析対象範囲に採用していることである。第三には、総合サービスを提供する企業のブランド力という概念を新たに定義していることである。

上記に基づき、本論文の独創性、及び学術的発展性が認められ、博士論文に相応しいものとして評価できると、審査員の意見が一致した。

主査（職・氏名） 孫根志華

